

令和6年度学校評価アンケート結果

桜が丘特別支援学校

1 実施方法

- 対象は、児童生徒及び保護者、教職員に評価1～4の4段階評価でアンケートを実施
- 実施期間は、令和6年12月2日(月)から12月20日(金)まで

2 回収率

- (1) 保護者(回収率 93% 53/57)
- (2) 職員(回収率 98% 39/40)
- (3) 小・児童(回収率 50% 3/6)
- (4) 中・生徒(回収率 79% 15/19)
- (5) 高・生徒(回収率 65% 28/43)

※児童生徒アンケート結果については、各部において分析と意見の集約を行い、指導の参考資料とする。

3 アンケート結果と分析

(1)結果

別紙参照 (㊦保護者用、㊧職員用、㊨自由記述欄の意見)

<保護者>

- ・全評価平均は 3.3(昨年度と同じ)
- ・「昨年との差」が±0.5以上の項目はなし。
- ・今年度の「評価」が3以下(低い)の項目は、「8(家庭学習の習慣)」「12(家庭の決まりや約束、手伝い)の2項目。
- ・今年度の「評価」が3.5以上(高い)の項目は、「6」「7」「9」「13」「14」「16」「17」「18」の8項目。
- ・自由記述は、3件。

<職員>

- ・全評価平均は 3.2(昨年度より-0.1)
- ・「昨年との差」が±0.5以上の項目はなし。
- ・今年度の「評価」が3以下(低い)の項目は、「1」「2」「3」「4」の4項目で、いずれも目指す児童生徒像であった。
- ・今年度の「評価」が3.5以上(高い)の項目は、「9」「10」「11」「16」の4項目で、児童生徒指導、安全教育の部分で評価が高かった。
- ・自由記述欄は、8件。職員間の情報共有や連携、指導の方向性の確認など、校内の意思疎通の重要性についての意見が多かった。また、児童生徒の障害特性等から、外部機関との相談や連携についてのシステム作りの必要性についての意見もあった。

(2)分析

<保護者>

・家庭学習に関する項目が低い。

学習に関心のある保護者への対応、家庭学習の定着についての検討・・・①

・家庭での決まりや約束、手伝いなどの役割の項目が低い。

学校での取組や工夫などを家庭へ生かすことはできないか、学校と家庭との連携についての検討・・・②

・自由記述欄についての具体的な取組についての検討・・・③

<職員>

・目指す児童生徒像について

各項目について、具体的な指導内容や指導場面等についての検討・・・④

・児童生徒の障害特性や指導の方針等についての意見交換、情報共有の確保についての検討・・・⑤

・関係機関への相談システム、連携づくりについての検討・・・⑥

4 今後に向けての改善策

・改善策案の検討については、3(2)の分析結果(①、②、③、④、⑤、⑥)を中心に行う。

・各部、各分掌部で検討したものを集約し、学校評価委員会で取りまとめる。

No.	具体的評価内容
	○取組(案)・改善策(案)
8 ①保護者 分析①	子供は、家庭学習(自主学習、読書、宿題、タブレットでの学習)の習慣が身に付いている。 ○家庭学習の習慣や意欲付け、意識を高めるために、学部や個々の児童生徒の実態に合った取組を実施する。図書の貸し出し表彰、オンライン学習ツールの利用推進など。 また、面談やホームルームの時間を活用して、生徒や保護者に対して家庭学習に意識が向くように話をする。
12 ①保護者 分析②	子供は、家庭の決まりや約束を守ることができ、手伝いなどの習慣的な役割をもっている。 ○家庭につながるように、学校生活の中で行っている係活動や児童生徒会活動などをおして、役割を担う必要性や大切さを意識して指導する。 学校での取組や様子を知らせ、家庭で生かせるようにする。
自由 ③保護者	授業中の生徒の姿勢が悪いので、どんどん注意していいと思う。 出来る限り姿勢の良さは維持させる方がいいと感じる。

分析③	<p>○児童生徒の特性や心身の状態に応じて、自立活動の中で取り扱ったり、普段から言葉を掛けたりして、粘り強く指導していく。</p> <p>○姿勢に関しては、原因等を確認し、個人面談等を活用して、細やかに指導を行っていく。</p> <p>○必要に応じて、姿勢保持や情緒の安定のために有効な支援具等を活用する。</p>
自由 ③保護者 分析③	<p>運動ができる子には運動をさせてほしいです。少しの時間でもいいのでお願いします。</p> <p>○継続して、昼休みは体育館、運動場、プレイルームを開放し、自由に利用できるようにする。</p> <p>○高等部は、放課後活動を継続し、運動の時間や場所を整える。</p>
1 2 3 4 ①職員 分析④	<p>「友達や周囲の人たちとのつながりを大切にし、思いやりと感謝の気持ちを表現する児童生徒」が育っている。</p> <p>「自分の病気や障害を理解し、健康の回復・改善のために努力する児童生徒」が育っている。</p> <p>「目標に向かってあきらめずに学び、挑戦し、自分の力を高めようとする児童生徒」が育っている。</p> <p>「自分のよさや可能性に気づき、将来や自分の生き方について考え、行動できる児童生徒」が育っている。</p> <p>○1～4については、本校の現状として児童生徒がもつ課題であり、自立活動の目標と関連している生徒も多い。継続して、自立活動の時間の指導や学校生活全体で日々指導を行っていく。今後も自立活動検討会を計画、実施し、個別の指導計画を通して情報交換、共通理解を確実に行う環境を整えていく。</p> <p>○各部で検討したことを意識して取り組んでいく。</p>
自由 ①職員 分析⑤	<p>障害特性、指導・支援等についての情報共有、ルールやマナーの指導</p> <p>○ルールやマナーの指導の必要性や方法、曖昧なルール等は学部や学校全体で共通理解して、指導にあたる。</p> <p>○学校のルールの意味や変更の必要性等については、児童生徒自身で考え、結論を出す機会を設定する。児童生徒会活動の充実を図る。</p> <p>○継続して、共通理解の会を実施し、児童生徒について共通理解、支援法などの検討を行っていく。また、職朝の時間を活用して、こまめに情報共有を行う。</p>
自由 ①職員 分析⑥	<p>関係機関との連携</p> <p>○関係機関との連携については、ケースバイケースだが、外部との連携が必要な場合は、部主事へ相談、部主事が教頭、校長と確認しながら早急に進める。</p> <p>○教育支援部を中心に校内システムについて検討し、年度初めの職員会議等で明示し、職員全体で共有する。</p>